

機械装置を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	業種 （小） コード	事故 の型 コー ド	労働 者規 模
1999	3	15 ～ 16	ボイラの脱硝反応器をスピードキャリアに積載して水切場からボイラ据付現場へ輸送するため、水切場から約70m先の左にカーブしたところで、スピードキャリアごと右に横転し、その際に工事関係車両5台とコンテナハウス2個が下敷になり、下敷になった1台の車両内に休憩中の作業員2名が被災し、うち1名が死亡した	30201	6	1～9
1999	7	10 ～ 11	工場内の長さ30mのコンベヤーラインを5分割したもの(重量427kg)の片端をハンドパレッターに、もう片端を重量車輪に乗せて人力で搬出作業を行っていたところ、建屋出入口扉用の溝に重量車輪が落ちて動かせなくなったため、力を入れてコンベヤーを押ししたところ溝から勢いよく出たが、その反動でコンベヤーが倒れて頭部を工場床とコンベヤーとの間に挟まれた。	11401	5	30～ 49
1999	7	8 ～ 9	10tトラックの荷台から約200kgのコンベアを降ろすため、荷台上で移動させようとしたときに、コンベアが倒れ荷台からともに落下し、その下敷きとなった。	40301	5	50～ 99
1999	10	19 ～ 20	ブドウを絞る搾汁機(重量1.625トン)を総重量25トンのトレーラーで運搬していたときに搾汁機が傾いていたため、途中の駐車場で、傾きを直すため固定していたベルトを緩めたところ、搾汁機が倒れてその下敷になった。	40301	5	30～ 49
1999	11	11 ～ 12	430kgのプレス機械の据え付け作業で、ハンドリフターから板木の上にプレス機械を置いたのち、この板木をジャッキを使用してはずす作業をしていたときに、プレス機械が倒れて頭部に激突した。	40301	5	10～ 29

2000	9	11 ～ 12	自動車の解体工場で、重さ7tのコンバインの前部にフォークリフトの爪を差し込み高さ1メートル24cmまで持ち上げ、後部は地面に付けたままの状態コンバインの左側面のボルトを外していたところ、コンバインが左側に横転し、作業を行っていた4名のうち1名だけが逃げ遅れて挟まれた。	80109	5	1～9
2000	10	9 ～ 10	70tプレスを他工場から工場に運搬できて設置する作業で、床の上に敷いた木材の上にプレスを置き、ジャッキで徐々に下ろしていたところ、突然プレスが倒れてきて下敷きになった。	40301	5	1～9
2000	4	8 ～ 9	公共下水道終末処理場の電気設備工事において、電気室内に設置された配電盤(質量2.5t)の据え付け位置変更を変更するためジャッキを使用していたときに、配電盤が倒れその下敷きになった。	30302	5	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	巻き取り機械(重さ4t)を工場からトラック(11t)荷台に積むためワイヤー2本で玉掛けして移動式クレーン(25t)で吊り上げ約10cm地切りしたときに、機械が横転して付近にいたが機械と地面との間に挟まれた。	30309	7	10～ 29
2000	8	11 ～ 12	廃車置場において、積載型小型移動式クレーンを使用してトラックの荷台に荷を積み込み、荷台上で自立していた荷の吊具を外したところ、荷が倒れて激突された。	11701	5	1～9
2000	6	18 ～ 19	立体駐車場の建設において、作業用のゴンドラを移動式クレーンでトラックから荷卸しする作業で、ゴンドラに乗って1台目に玉掛したのち2台目に移動し、トラック荷台のあおりを降ろしてゴンドラを吊り上げたところ荷台に勾配があったため2台目が滑りゴンドラとともに約1.3mの地面に転落し約500kgのゴンドラの下敷きになった。	30302	1	300 ～ 499
2001	4	9 ～ 10	NC中繰り研削盤で建設機械の部品加工作業を行っていて、部品の取り付けてある治具(質量約350kg)を取り外すために治具を固定しているボルトを外したところ、この治具が倒壊して頭部及び顔面に激突し、さらに1.12m下の床に治具とともに転落した。	11301	5	100 ～ 299
		11	吊りチェーン2本で玉掛けした小型電気炉(280kg)を、吊り上げ荷重2.8tの天井クレーンで吊り上げたところ、チェーンが掛けられていた			

2001	2	～ 12	電気炉の扉が外れて電気炉が廃材の山を転げ落ち、下にいた者の頭部に激突した。	11709	6	1～9
2001	9	～ 9	カプセル充填機(約800kg)とハンドリフトを吊架台(2.1×4.05×1.28m)に積み、移動式クレーン(吊り上げ荷重25t)で吊り上げて工場2階搬入口(高さ5.31m)に横付けし、渡し板を架けてハンドリフトでカプセル充填機を移動中に、吊架台が傾いてカプセル充填機とともに墜落し、下敷きになった。	40301	1	30～ 49
2001	9	～ 10	リボイラー(質量430kg)5基の据付作業のため、10tトラックで運ばれてきたものを2tトラックの荷台に乗せ代えて搬入し、荷降ろしのためバックで定位置に停車しようとしたところ、歩道の縁石に後輪が当たり急停止したため荷台上で5基のリボイラーが将棋倒しとなり、荷台後部に乗っていた者がその下敷きになった。	30302	5	10～ 29
2003	1	～ 16	熱交換器(質量490kg)をトラックに積み込むため、玉掛けしてワイヤロープをフォークリフトの爪にかけ、フォークリフトを前進させてトラック荷台上に降ろそうとしたときに、ワイヤロープが外れて熱交換器が荷台から道路上に落ちたときに一緒に転落し、熱交換器と道路との間にはさまれた。	11301	6	1～9
2003	2	13 ～ 14	トラックにパワーゲートで自動証明写真機(質量約390kg)を積込む作業中、パワーゲートがトラック床面まで上がる寸前に突風で写真機の前面が浮き上がって滑り落ちそうになったので、2名で支えようとしたが支えきれずに写真機が滑り落ち、1名はその場から逃げられたものの、1名は写真機を運搬してきたハンドリフトに足を取られ逃げ切れずに下敷きになった。	170209	4	100 ～ 299
2003	3	9 ～ 10	4tトラックから質量1.2tの大型コンピューターを降ろす作業で、コンピューターをトラックの荷台から移動してテールゲートに載せたときに、大型コンピューターがトラック後方に転倒落下したため、トラック後方で大型コンピューターを支えていた者が下敷きになった。	40301	4	10～ 29

2003	10	8 ～ 9	圧縮成型機（質量約1.4t）の移設作業で、成型機に油圧ジャッキ4機を架けて100mmほど持ち上げてハンドリフトを差し込んでいたところ、成型機がバランスを崩して転倒したため成型機の下敷きになった。	40409	5	1～9
2003	12	15 ～ 16	鋼製のついたて（幅4m、高さ2m、底板1m）など9個をクレーンで積み込んで、ついたての重なっているところで荷締め作業をしていたときに、衝立が崩れ落ちてはさまれた。	40301	7	1～9
2004	4	10 ～ 11	射出成形機用の金型（重量5t）から型となるピンを取り外すため、2名で金型の両側に分かれ作業を行っていたところ、金型が被災者側に転倒した。	170209	5	100 ～ 299
2004	10	13 ～ 14	クローラクレーンを現場に運ぶためトラックの荷台にカウンタウエイト、その上に先端側のジブを載せて荷締め機で固定する作業中、ジブが落下しジブの下敷きになった。	170209	4	1～9
2004	10	11 ～ 12	トラックにプラントの機械部品をホイールクレーンで積込む作業において、トラック荷台上で次の部品を積むため、既に積み終わった部品（幅約60cmの金属製の板）の上を歩行中、体のバランスを崩し約2.5m下のアスファルト路面上に墜落した。	40301	1	10～ 29
2004	1	15 ～ 16	マフラー工場レイアウト変更工事において、バフ機を1階から2階へ移設し、ベースの調整のためバールで押し上げたところ、ベースの調整を行っていた被災者にバフ機がバランスを崩して転倒して、被災者が挟まれた。	50101	5	1～9
2004	3	15 ～ 16	購入した中古トラックを運搬用トラックに積載する作業を一人で行っていたが、トラック右側の地面で倒れているのが発見された。	80202	7	1～9
2004	10	9 ～ 10	講習会に参加した被災者が、同僚1名とともに、展示機械（キャスター付き、重量約150kg）を搬入中、搬入経路に敷いた養生板が進行方向に滑り、その養生板に足を載せていた被災者が転倒しその上に移動中の機械が倒れ、下敷きとなった。	11302	6	10～ 29

2004	1	23 ～ 24	可搬式のリフターを台車に載せ、台車の先頭部分に取り付けられているワイヤロープを天井クレーンのフックに掛けて工場床面を水平に移動させていたところ、台車上のリフターが被災者側に倒れ、当該リフターと炉の間に挟まれた。	10909	5	30～ 49
2004	7	8 ～ 9	ボイラー用煙道として直径3mダクトを10本設置する工事で、トラック荷台に固縛されたダクト上にはしごで上がり、上架のため本ワイヤーに交換後、はしごから降りる際、はしごが滑って、墜落した。	30302	1	1～9
2005	9	16 ～ 17	パレットトラックから手作業で降ろそうとしていた制御盤（重さ400kg）が倒れ、下敷きとなった。	10102	5	100 ～ 299
2005	6	13 ～ 14	トラック荷台のあおりを閉める作業中、積荷のコンプレッサーが落下してあおりに倒れかかり、側にいた被災者をあおりが強打した。	11009	4	10～ 29
2005	3	10 ～ 11	配電盤（重さ180kg）の運搬作業中、台車に載せた配電盤を地面に降ろそうと配電盤を傾けたところ、支えきれずに倒れ、配電盤に挟まれた。	30301	7	1～9
2005	6	13 ～ 14	機械設備の据付け作業において、フォークリフトのフォーク上にワイヤで固定されていた機械（重さ1.5トン）を外したところ、機械が倒れて機械の下敷きとなった。	30302	5	30～ 49
2005	11	8 ～ 9	プレス金型の組付け作業中、修理を終えた金型が落下し、被災者に激突した。	11502	6	50～ 99
2005	9	8 ～ 9	チャンバーという水門の部材を仮組立て後、解体して搬送する際に、仮止めしていたボルトを抜いたため、一部の部材が倒れてその下敷きとなった。	11209	6	300 ～
2005	11	16 ～	原料棟設備の撤去工事において、ホッパー（重さ1.2トン）にワイヤをかけ、フォークリフトのフォークにワイヤを掛けてつり上げたところ	30209	7	1～9

		17	ろ、当該ホッパーが傾き、近くにいた被災者に、傾いたホッパー上部の天板が激突した。			
2005	10	9 ～ 10	移動式クレーンでコンベヤーのベルトをつり上げ、コンベヤーシャフトから引き出す作業中、つり上げたコンベヤーのベルトが切れ、被災者が落下するベルトに巻き込まれながら17mの高さにある点検用ステージから、シャフト内に墜落した。	40301	4	10～ 29
2006	5	14 ～ 15	自動販売機（約400kg）設置作業中、一端を敷石（H=12cm）に乗せ傾いた状態で仮置きした自動販売機が倒れ、支えていた被災者が下敷きとなった。	80209	5	10～ 29
2006	5	15 ～ 16	機械室において、発電機等の関係設備を撤去する作業中に、制御盤（高2.15m×横1.0m×奥2.2m、重1.0t）を長さ30cmのコロを使用し、搬出口の方へ横移動させていたところ、コロが基礎部分からずれて溝に落下。そのため制御盤がバランスを失い、被災者側に倒れてきて、制御盤と基礎の部分にはさまれた。	30302	7	10～ 29
2006	8	17 ～ 18	オートクレーブグランドパッキン交換及びベアリング交換工事において、被災者ら3名でオートクレーブ内の高さ2.9メートル幅2.7メートル重さ約4トンの台車に載ったクーラーヒーターを、フォークリフトを使用してオートクレーブ内を移動させていたところ、台車の車輪が脱輪してクーラーヒーターが倒れ、被災者が下敷きになった。	30302	5	10～ 29
2006	9	18 ～ 19	被災者が2階建て工場建物の北側外壁に沿って設置されていた原材料の野菜やパック詰めされた商品等を入れておくプラスチックコンテナを自動洗浄する機械を使用して洗浄作業をしていたところ、屋上から真空パック包装機械の動力に使用していたコンプレッサーが落下してきた。同コンプレッサーは設置場所を変更するために建築業者によりラフタークレーンを使用して屋上から地上へ降ろす作業の最中であつた。	10109	4	50～ 99
		16	マンション新築工事現場において、被災者と同僚が防水工事のため10階の屋上に上がり、屋上外周にアルミ製アングルの固定作業を行っ			

2006	10	17	～	ていたとき、作業床の端から墜落した。被災者は10階及び9階のベランダの手すりに落ち、次いで2階のフロアに接触し、最後に隣接する家のアルミフェンスに落ちた。	11009	7	1～9	
2006	9	8	～	9	くい打ち機のトップライダーを、点検整備のため移動させようと被災者が玉掛け作業を行い、ついで被災者は使わなくなった機械（重機の旋回部）の上に上り、クレーン運転手に合図を行い、クレーン運転手が地切りを行ったところ、クレーン運転手から被災者が見えなくなった。クレーン運転手は近くにいた同僚に被災者の様子を見てくるよう頼んだところ、被災者は地面に倒れていた。	30199	6	100 ～ 299
2007	6	11	～	12	黒土乾燥室において、黒土乾燥機械の移設作業中、ハンドリフトに積載していた当該黒土乾燥機械の一部（コンクリート製の円筒とその架台）が倒れ、作業者に激突した。	30302	5	10～ 29
2007	7	9	～	10	工場内のレイアウト変更を依頼された被災者等は、プレスブレーキを移動させるため、プレスブレーキの下に移動補助器具を取り付けて1～2 m程度移動させた。その後、移動補助器具を外すためプレスブレーキの後方をジャッキで上げたところ、被災者の方に倒れ、被災者は下敷きとなった。	40301	6	10～ 29
2007	9	11	～	12	工場内に据え付ける除湿器（二圧、重さ0.9 t、高さ2.5 m、幅1.2 m）を建屋内に搬入するため、車両積載形トラッククレーン（つり上げ荷重3 t）につり下げて横倒しにしたところ、荷が振れて、これを押さえようと駆けつけた被災者が荷（下部フレーム）と移動式クレーンの、張り出したアウトリガーの間にはさまれた。	30302	7	1～9
2007	3	17	～	18	高さ1.3 mの作業構台上で、上下2段に積まれたトラック用シャーシ2本を事業主が運転するフォークリフトで後方から押してコンテナに積載する作業中、被災者がシャーシの車軸の輪止めをはずしたため、荷が1.5 m後退し、シャーシの車輪の下敷きになった。	80109	7	10～ 29
		8			被災者は、射出成型部品の試作品の成型に立会う業務に従事していた。試作品の金型（重量450 kg）は、専用のローラー付の台に設			1000

2007	12	～ 9	置されていた。被災者は当該金型の下敷きとなり、床に倒れているところを発見された。	11709	4	～ 9999
2007	5	10 ～ 11	発電機更新工事において、発電機に送風するダクト（重量約2 t）のフランジ部に金具を取り付け、天井クレーンでつり上げてダクトの位置を調整していたところ、フランジ部がダクトから外れ、ダクト本体がピット内にいた被災者に落下した。	30302	4	30～ 49
2007	1	16 ～ 17	重さ約1.5 tの空調設備を高さ20 cmのコンクリート基礎に据え付けるため、空調設備を台車に乗せ、2名が両脇から空調設備を押し、1名が正面からバールで空調設備の底を持ち上げて基礎に載せていた。バールで空調設備の底を持ち上げたところ、空調設備が横転し、空調設備を押していた作業者が下敷きになった。	30302	5	10～ 29
2007	7	14 ～ 15	エンドレスタイラー式機械集材装置による全幹集材作業中、林業架線作業主任者で、かつ、荷かけ作業及び集材の合図者であった被災者が、集材の合図を行い、ウインチの運転者が荷上索の巻上げを開始したところ、荷かけした5本の材の内1本（長さ9.6 m、胸高直径29 cm）の荷かけ側の先端が枝払いした枝の塊の箇所に引っ掛かり、ここを支点に、当該材が振り子のように大きく振れて、被災者に激突した。	60201	6	10～ 29
2008	6	9 ～ 10	閉鎖した工場の産廃の処理設備を自社工場に移設するため設備の解体撤去作業を行っていた。撤去するベルトコンベヤーを移動式クレーンでつり、被災者一人でコンベヤーを支えている鋼材（支柱）を順次、ガス溶断していたところ、鋼材の一つを溶断した直後、つっていたコンベヤーが振れて被災者がコンベヤーと工場建屋の壁の水平材との間にはさまれて死亡した。	10909	7	1～9
2008	4	11 ～	現場より回収したセメントサイロを移動式クレーンで寝かせて下ろした。その後、サイロを立てたところ、当該サイロに付設してあるタラップを昇降させるための折りたたみ式タラップカバー（周囲にネッ	40302	1	10～

		12	トが張ってある) が正常に作動しなかった。被災者がこれを直すためにネット越しにタラップを登って作業を行った後、タラップを降りている時にバランスを崩して約4m (足の位置) の位置から墜落した。			29
2008	8	7 ~ 8	船体ブロック (重量約128t) を第4船殻工場から第1船台に270tクレーンを用いて移動させて、船台上に4基配置された反転台に置くために反転台が船体ブロックを支えるのに適切な箇所となる作業を実施していた。その際、作業員8名で4基の反転台の位置を調整していたところ、クレーンでつり上げた状態のブロックが振れたため、ブロックと反転台上の盤木との間にはさまれて死亡した。	11501	6	300 ~ 499
2009	12	14 ~ 15	20tトレーラーの荷台に油圧プレス (重量約4.7t、高さ2.3m、長さ2.5m、奥行き1.1m) をホイールクレーンで積み込み、荷台に固定するため、被災者は当該プレスの上端2箇所にワイヤロープを掛けてレバーブロックで締め付けていたところ、当該プレスが被災者側に転倒し下敷きとなった。	40301	4	30~ 49
2009	2	13 ~ 14	タイルを乾燥させるために使う台車と建屋のコンクリート製の柱に身体等がはさまれた。台車はトラバースにて移動するもの。	10903	7	1~9
2009	2	8 ~ 9	岸壁に設置した360t移動式クレーンを用いて、船倉内から変圧器一式のうち、下部タンクを荷揚げしたところ、荷ずれ防止用角材2本が一緒につり上がった。その内、1本が外れたところで下部タンクが反時計に回転し、介錯ロープを持っていた被災者が回転した下部タンクと船倉内の他の荷との間にはさまれた。	40301	6	100 ~ 299
2009	9	10 ~ 11	機械装置を別の倉庫に移す作業をフォークリフトを使用し機械装置の架台とフォークをシャコ万力で固定して行っていた。カシメ機 (高さ270cm、重量1.3t) を移動させている途中、荷が揺れたので一旦フォークを抜き、さす方向を逆にしてフォークを入れ直してシャコ万力を締めている時、荷が被災者の方に倒れかかってきて、地面と荷にはさまれた。	11502	5	100 ~ 299

2010	5	13 ～ 14	<p>作業終了後、高所作業台（高さ2 m）を体育館内から移動し、屋外に停車してある積載型小型移動式クレーンに積込もうとしたが、体育館玄関の軒が邪魔であり、直接クレーンへ積込むことが困難なため、玄関の階段（高さ14 cm×4段）を下ろそうと、高所作業台に玉掛けしてクレーンで横引きしながら、3名で運搬していたところ、高所作業台がバランスを崩し、被災者側に倒壊し、はさまれた。直ちに病院に搬送されたものの、死亡した。</p>	30301	5	10～ 29
2010	5	10 ～ 11	<p>出張先の工場のボイラー室内において、ボイラーの交換作業中、新しく据付ける小型ボイラー（重量1.8 t）を据付け場所の手前にさん木を置き、仮置きした。そこから、据付け場所まで移動するための準備で、ボイラーを載せていたさん木をより低い板に換えるため、油圧ジャッキでボイラーの一边を持ち上げ、被災者がさん木を抜いたところ、バランスが崩れてボイラーが倒れ、被災者がボイラーと床とに挟まれ死亡したもの。</p>	11702	5	1～9
2010	7	9 ～ 10	<p>2 tトラックに積んであった検査機器を、当該機器を設置する工場付近に降ろす作業を行うため、工場敷地内の道路上にトラックを停車させ、3人の作業者がそれぞれの作業を行っていたところ、トラックの後部あおりを地上で外していた被災者に、トラック荷台に積んであった検査機器（縦53 cm、横74 cm、高さ173 cm、重量約120 kg、キャスター付き）が落下し、下敷きとなり死亡した。</p>	40301	4	10～ 29
2010	9	13 ～ 14	<p>粉碎機（ジョークラッシャー機）約1 tを設置するため、片側の脚部を天井クレーンを使用して床面に降ろした後、もう片側の脚部を床面に設置させるため、脚部に敷いた建材の取り除くにあたりジャッキを使用して脚部を持ち上げ建材を取り除いたとき、ジョークラッシャー機が傾きはじめ、ジョークラッシャー機の下でジャッキアップしていた被災者が退避しようとしたところ、被災者の上に倒れ胸部付近を圧迫し死亡したもの。ジョークラッシャー機の重心が片側に集中していて、集中していない側をジャッキアップしたとみられる。</p>	40301	5	50～ 99

2011	3	10 ～ 11	工場東側機材置き場にて、1人で橋形クレーン操作中に、つり上げていた機材が下にあった機材に引っかかったため、移動させようとクレーンを動かした。その際、操作を誤り、つり上げていた機材が下にあった機材へぶつかり、それが本人左脚へ落下し骨折に至る。平成23年4月9日、肺塞栓症により死亡。	80409	4	1～9
2011	1	14 ～ 15	自動販売機（重量約260キログラム）の保管のために、フォークリフト（許容荷重1.1トン）を用いて運搬し、保管場所に設置し終えた自動販売機が倒れ、自動販売機とフォークリフトとの間にはさまれて死亡したもの。	80109	5	50～ 99
2011	12	9 ～ 10	製糖工場内での蜜タンクの交換工事中に、現場で組立てたタンクの底板を裏返す作業に就いていた被災者が、当該タンク底板が73度の傾斜で立てられた状態のときに、墜落し、災害発生の翌日の午前10時ごろ、搬送先の病院で、肝臓損傷等のため死亡したもの。災害発生時の状況は不明だが、当該底板の工場床面から高さ3.3メートルの箇所付近から転落した可能性が高い。	30302	1	1～9
2011	7	8 ～ 9	2階建て木造住宅解体工事において、周囲を仮囲いしようとしたところ、屋外に設置されていた電気温水器（高さ1.9×幅0.66×奥行き0.66m）が邪魔となった。そのため、3名で移動しようとしたところ、被災者が倒れてきた電気温水器の下敷きとなり死亡したもの。	30209	5	10～ 29
2011	2	11 ～ 12	前記建屋内で発電用タービン部品（鋼製の輪を半分した形状で重量4.1トン）の梱包作業中、被災者が床上操作式のクラブトロリ型天井走行クレーン（主巻80トン、補巻20トン）で同部品を梱包材である木製架台の上方約60センチメートルに移動し据置き位置の微調整のため一旦停止させた。次にクレーンを微調整走行させるところ、同部品が上部から被災者側に反転し、落下した荷と床面との間に被災者が胸部を挟まれたもの。	11709	4	1～9
			精米機廃棄のための積み込み作業において、トラック荷台上で精米機			

2012	9	14 ～ 15	を並べる作業中、当該精米機の脚部が荷台開口部にはまったことにより当該精米機が被災者側に倒れ込み、被災者は精米機とともに荷台から墜落、さらに、墜落した被災者の頭部に精米機が落下し、後頭部の粉碎骨折、脳ヘルニアにより死亡した。	30302	4	1～9
2012	8	11 ～ 12	工場において、被災者は手工具の加工機械の設置高さを微調整するため、当該機械下部と床面の間にバールを入れて持ち上げ、スペーサーを挟む作業を行っていたところ、当該機械が被災者側に倒れ下敷きになり、頭部及び胸部を挟まれ死亡した。	11302	6	50～ 99
2012	1	12 ～ 13	資材置き場で、アース・オーガーの掘進機構部分（長さ約3m、直径約0.5m、重さ約1.5 t）のモーターの修理を行った後、移動式クレーンを用いて移動させるため（移動式クレーンは、事業場の他労働者が運転）、被災者が移動対象物にワイヤロープをかけようと上がったところ、被災者もろとも倒れ、被災者が移動対象物に頭を強打し、死亡した。	30199	1	10～ 29
2012	9	14 ～ 15	熱交換器（縦約150cm、横約60cm、重量約680kg）を台車2台に乗せ、労働者2名で撤去作業を行っていたところ、当該熱交換器が被災者側に倒れ下敷きになり、熱交換器の突起部分が被災者の左胸に刺さった。	30302	5	10～ 29
2013	8	17 ～ 18	フィルム延伸の連続した機械のうち、巻取機と呼ばれる機械の紙切部（高さ約2.2 m、幅約2.4 m、重量約4 t）を仮設置する作業中、被災者が紙切部の下へ東側から腹這い状態で潜り込み、紙切部の両側のフレームを繋ぐ梁の下面に手動の油圧ジャッキを設置し、ジャッキを操作して紙切部を持ち上げようとしたところ、紙切部がバランスを崩して東側に倒れ、被災者は床と紙切部に取り付けられたロールに両大腿部をはさまれた。	30302	5	10～ 29
2013	2	16 ～	鋳造品搬送装置を搬入し、動作確認を行った後、当該装置の一部（重量約1 t）をクレーンで吊り、高さ約1 mの架台4台に載せていた。被災者は、当該装置付近で何らかの作業を行っていたところ、重心が	11301	6	1～9

		17	偏っていた装置が架台をはねて落下し、被災者は床との間に挟まれ死亡した。			
2013	8	11 ～ 12	4トントラックから荷卸し作業中、重さ約600キロのキャスター付の加工機械が荷台から落下し、地上で作業していた被災者の頭部に激突した。	30302	4	10～ 29
2014	8	9 ～ 10	工場内の壁に立てかけてあったロールシャッターの部品を廃棄しようと、フォークリフトの爪に載せようとした際、ロールシャッターの部品を壁から身体に引き寄せ、爪の上に寝かせようとしたところ、荷とともに仰向けに倒れ、床面に頭部を打ち付けた。	10109	2	100 ～ 299
2014	3	12 ～ 13	移動式クレーン機能付きトラックで、荷台への制御盤の積み込み作業を行っていたところ、制御盤が荷台から落下し、下敷きになった。	80109	4	1～9
2014	2	11 ～ 12	被災者は、トラックに納入品である支柱（重量約190kg）等を積み、納入先駐車場で荷降ろし作業を行っていた。被災者と別の作業員Aの2名で、支柱を立てた状態で荷台前部から後部に運んだ後、Aは一旦その場を離れ、再度トラックに戻ってきたところ、倒れた支柱と、その倒れた支柱の先端部分に頭が下敷きとなり、うつぶせに倒れている被災者を発見した。	130201	6	1～9
2015	6	14 ～ 15	荷積み先工場内において、構内下請け事業場労働者の運転するフォークリフトにより、橋桁コンクリートブロック用型枠（重量約250kg、以下型枠という）を6枚重ねでトラックに荷積みしていた。積んだ型枠が荷台からはみ出していたため、位置を修正しようと再度型枠を持上げたところ、上部の1枚が荷台からフォークリフト反対側地面に滑落した。トラック運転者である被災者は滑落した型枠の側で胸部を強打した状態で発見された。	40301	4	1～9
		11	被災者が資材置き場においてトラックの荷台にベルトスリング等（以下、「固定具」と言う）で固定して積み込んであった移動式クレーンのジブ（以下、「ジブ」と言う）の荷降ろし作業を行っていた。被災			

2015	9	～	12	者がジブを4か所で固定していた固定具のうち3か所を外し、最後にジブに残っていた固定具を外すためにジブに乗ったところ、ジブがトラックの荷台から落下した際、被災者が荷とともに墜落し、その下敷きとなったもの。	30199	4	30～ 49
2015	2	～	16 ～ 17	上下二段のキャリアカー上段に積載した自動車一台を、道路側方にて地上に降ろす作業を行っていた際に、斜めになったキャリアカー上段床面上を当該自動車がずり落ち、当該自動車とキャリアカー上段床面との間にはさまれるかたちとなり、外傷性窒息のため死亡したもの。	40301	7	30～ 49
2015	5	～	8 ～ 9	トレーラーの荷台に積まれたスクラップにする機械（回収してきたもの）を荷卸するため、アオリを下げ、荷台に上がって機械を固定していたワイヤーロープを外していたところ、機械が倒れて、被災者の胸部に当たった。機械は、アオリに寄りかかり、被災者は機械の下に倒れた。機械はワイヤーロープで固定されていたものの、機械の脚部4本のうち1本が欠けており、不安定な状態で運搬されていた。	11009	6	10～ 29
2015	10	～	14 ～ 15	つり上げ荷重200トンのクローラクレーン（タワー仕様）の解体作業において、解体したジブの接続部である『タワーキャップ（重量：約1.7トン）』をトラックの荷台上に積み込んだ状態でラッシング作業中、タワーキャップが転がり、転がったタワーキャップとアオリとの間に挟まれ、搬送先の病院にて死亡が確認されたもの。	40301	6	30～ 49
2015	12	～	17 ～ 18	建設資材等を運搬するため現場に入場していたトラック運転手が、トラックの荷台の脇で積み込んだ台車の位置を調整する作業中、当該台車の後輪側を押したところ、台車の前輪側が荷台から落下しそうになった。作業の様子を見ていた被災者が台車の前輪側を押し戻したところ、荷台から後輪側の台車のキャスターが脱輪したため、台車が荷崩れを起こし、被災者の頭部等に台車が落下したもの。	30203	4	10～ 29
				ドラグショベルをクレーン代わりに使用し、使用済みのバケットをトラックに積み込む作業中、ドラグショベルのバケットの裏面に取り付			

2016	8	16	けられたフックにチェーンを掛け、その先端にバケットを玉掛けし、	30209	6	1～9
		17	ドラッグショベルのアーム部分を操作し移動していたところ、吊った			
			バケットがトラックのあおりに接触して、その反動でフックから当該			
			チェーンが外れ、チェーンとバケットが落下し跳ねて、付近にいた被			
			災者にバケットが当たった。			
2017	12	8	トラックに積載されたクレーンの部品（継ぎジブ）の荷下ろしを行う	40302	4	300
		9	際、同僚が玉掛けのため当該ジブによじ登ろうとした時、バランスが			～
			崩れジブがトラック荷台より転げ落ち、トラック横で関連装備の収納			
			作業を行っていた被災者が下敷きになった。			
2017	10	6	2 tトラックの荷台から、鉄製のかごに入れた産業機械の部品（計約	40309	4	10～
		7	510Kg）を降ろそうと、同僚が荷台上でゲートリフターを降下させ			29
			たところ、かごの中の荷が傾き、地上でかごを押さえていた被災者			
			に激突し、被災者は荷の下敷きになり死亡した。			
2017	4	8	ホテル新築工事現場において、地下1階で給水ポンプユニット（重量	30209	5	10～
		9	約1.4t、幅約2.2m、奥行約1.0m、高さ約1.7m）を台			29
			車（幅約1.3m、奥行約0.8m）に載せて6名で運搬しようとし			
			ていたところ、給水ポンプが倒れて2名が下敷きになり、うち1名が			
			死亡した（もう1名は休業災害）。			
2018	9	16	マシニングセンターその他設備の更新のため、当該設備を含め15台	30302	6	10～
		17	の設備を搬出する工事に際し、災害発生に係るマシニングセンターの			29
			搬出には下部のクーラントタンクを本体に固定する必要が生じたこと			
			から、固定用のブラケットを取り付けるスペースを確保するため、本			
			体前面に設置されていた搬送コンベアを本体から切り離して移動させ			
			ていたところ、搬送コンベアが転倒し、その下敷きとなった被災者が			
			外傷性脳挫傷により死亡した。			
2018	4	14	機械用の空調機ユニット（高さ257×縦382×横160cm、重	30302	5	50～
		～	さ2.9t）を台車（縦50.5×横70.5cm）2個を用い、4			
			人で押して運搬中、押し作業に従事せず、監督員として手元で誘導作			

		15	業をしていた被災者の方向に同空調機ユニットが倒れ、下敷きになり死亡したもの。			99
2018	1	8 ～ 9	被災者と同僚と一緒にハンドリフトを用いて機械（重量約600kg）を搬出口まで運搬し、機械をジャッキアップ後、被災者が機械の下にりん木を入れ、同僚は次の荷物の準備のため、ハンドリフトを機械置場に戻しに行った。フォークリフトに乗っていた別の同僚が「ガシャン」という物音を聞いたのでフォークリフトを降りて搬出口を見たところ、被災者が頭から血を流して倒れているのを発見した。	170209	1	1～9
2019	7	8 ～ 10	被災者は、災害発生場所の事業場で廃棄するプレスブレーキを搬出するため、壁に立てて置いてあったプレスブレーキをジャッキアップし、枕木を下に置きジャッキを下げたところ、プレスブレーキがジャッキ操作をしていた被災者の方向に倒れ、下敷きとなり、救出後病院に搬送されたが、搬送先で死亡が確認されたもの。	30302	5	1～9
2019	6	14 ～ 16	低床型の台車で運搬された重量1.75tのプレスブレーキを、当該台車から床面に降ろすため、プレスブレーキの右側を油圧ジャッキを使用してジャッキアップしたところ、当該プレスブレーキが前面を下に向けて転倒した。その際、付近で作業をしていた被災者に当該プレスブレーキの上部が激突したものである。	11502	6	100 ～ 299
2019	3	16 ～ 18	使用していなかった機械設備を倉庫に移動するため、装置のハンドルを持ち、引っ張っていたところ、倉庫入り口で機械（質量：推定200kg）が転倒して被災者が下敷きとなった。倉庫入り口には約5cmの段差があり、スロープとしてベニヤ板が敷かれていた。	11209	5	50～ 99
2020	7	10 ～ 12	ごみ焼却場内で、設備に付帯する装置更新のため、作業員4人が搬入した製品（高さ1.31m、長さ1.8m、幅0.95m、重量約1.6t）の四隅に分かれ、複数のチェンブロックを用いて人力で製品をつり上げながら水平に運搬した後、前後2台の台車（長さ0.75m、幅0.5m）に敷いた角材の上に降ろし、製品に掛けていた	30302	5	1～9

			2本のチェーンブロックのフックを全て外し終えた際、突然横向きに倒れた製品の下敷きとなった。			
2020	6	14 ～ 16	荷主先にて、荷物（鋼製のスロープを4分割した物）を大型トラックへ積み込んでいた。同トラックの運転士と荷主所属の2名とで積み込み作業を行っていたところ、積み込んだ荷（縦約5m、横約3m、厚さ約40cm、重量約500kg）が倒れ、トラックからずり落ち、同運転士が下敷きとなったもの。	40301	5	10～ 29
2020	5	16 ～ 18	海岸の護岸工事において、消波ブロック（重量2.43t）を制作し一時保管する作業場で、移動式クレーンで消波ブロックを吊って移設する作業中、消波ブロックを地上に降ろして3名が3本の玉掛用ワイヤーのシャックルを外し、合図に従ってオペレーターが移動式クレーンの吊りワイヤーを巻き上げたところ、うち1本の玉掛用ワイヤーのシャックルが消波ブロックの一部に引っ掛かり、消波ブロックが倒れて被災者が下敷きとなった。	30111	5	1～9
2020	4	8 ～ 10	トレーラーで運搬してきた移動式クローラークレーンのジブを荷台から荷降ろしする際、荷台からジブが落下し、ジブと地面に挟まれ労働者3名が被災した。	30105	4	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_05.html